

TPP 農業破壊、暮らし・主権脅かす亡国の協定 徹底審議で廃案に

TPPは審議するほど危険性が明らかになり、国民の不安が広がっています。

日本共産党

解明すべき問題点の事例

テーマ	危惧されること
食の安全	遺伝子組み換え作物や輸入品の急増で「食の安全」が脅かされる
医療制度と薬価	国民皆保険制度が崩される危険。米国の製薬企業が薬価決定に影響を及ぼし、薬価が高どまりする
金融・保険	米国の利害関係者が金融・保険分野の規制緩和を要求してくる
政府調達	公共事業や地域経済が外資に開放される。労働分野での賃金低下、非正規雇用の増加、労働条件悪化がもたらされる。「中小企業振興基本条例」や「公契約条例」が規定できなくなる
知的財産	米国流の著作権ビジネス化が進む

国会審議の前提を欠いたままの審議

「丁寧に説明する」と言いながら、8400針の協定関連文書の和訳は2400針。交渉経過資料は表題以外すべて黒塗り。交渉担当者だった甘利氏は大臣辞任後も説明責任を放棄。

協定そのものの本格的審議はこれから

通常国会、臨時国会での審議は、「審議の前提問題」が議論の焦点で、協定そのものの審議はこれから。共同通信の世論調査でも66.5%が慎重審議を求めています。

危険浮き彫り

批准強行許されぬ

TPP強行

維新
自公

とんでもない国会軽視

安倍暴走きわまる



採決強行で委員長席に詰め寄り抗議する野党議員。4日、衆院TPP特委

暴言大臣放置しルール無視

「強行採決するかどうかは佐藤さん（衆院議運委員長）が決める。だから私ははせ参じた」「こないだ冗談を言ったら（閣僚を）首になりそうになった」。環太平洋連携協定（TPP）を所管する山本有二農水相の二度にわたる暴言。野党4党の辞任要求に何ら回答しないまま自民、公明と維新はTPP承認案・関連法案を衆院特別委で強行採決しました（4日）。

議長も「平穏でない」

特別委の開会は、議院運営を巡って議運委理事会で断続的に協議が行われていた最中。大島理衆院議長が「決して平穏な状況の採決でなかった」というほどきわめて異常な強行です。数の力で押し通せばよいという国会軽視。安倍政権の暴走が極まっています。

日本共産党

ほがし新報

2016年11月号外
発行/ほがし新報社

〒065-0012 札幌市東区北12条2-3-2
電話 011-750-1500
(1965年8月10日第3種郵便物認可)

日本共産党北海道委員会は政策を発表しました。
ご意見を、お寄せください。